

第44回 海外研修視察報告!

アメリカ西海岸において Google 社、Apple 社、スタンフォード大学、Amazon.com 等の視察を終えて無事帰国!

平成30年10月16日(火) から22日(月) の7日間にわたってサンフランシスコのウォーターフロント施設や世界的IT企業の集うシリコンバレー地区、新興主要企業の発展著しいシアトルなどで最先端の企業や施設の視察を行い、見聞を広めました。



Apple ビジターセンター



Google 本社



スタンフォード大学

Google 本社は日本のような高層ビルではなく、大学のような広大な敷地に低層建築物群が配置されており、緑や福利厚生施設(カフェ、ジム、売店、シャワー室、クリニックなど)を充実させ、社員がフレキシブルな発想をできる環境を整えるために配慮されていた。また、サンフランシスコ市内との間でオフィスの機能が整えられた送迎リムジンバスを運用しており、社員がバス内で仕事に集中しながら出勤できる仕組みを取っている。

Google 本社

一見すると社員に手厚い雇用環境のようだが、結果が出せなければ3〜4年で解雇となる成果主義を取っており、社員側も待遇を上げるために数年で転職していくのが主流であるようであった。

Apple 社

Apple 社のビジターセンターでは歩いて見学するのではなく、目の前のApple社のジオラマにiPadを合わせ画面に表示される社内構造を見るところというApple社ならではの見学システムであった。

スタンフォード大学

スタンフォード大学は板橋区(約32K²m)よりも広い約33K²mの敷地に最新のスポーツ設備や教会など歴史的建造物が配置されていた。リオ・オリンピックでは在学生・卒業生で16個の金メダルを取っており、勉強はもちろんスポーツにも力を入れていることが分かる。シリコンバレーに世界的企業が集まった一因は優秀な人材を多数輩出するスタンフォード大学の存在であり、社会的に成功した卒業生が母校に多額の寄付を行うなど、大学と企業の相互発展が実感できた。



フィッシャーマンズワーフ



マリナーズ球場



シリコンバレー



Amazon.com で現地社員との集合写真



Amazon.Go 外観

シリコンバレー全体

日本でも敷地確保や環境のため郊外に大学を建てるケースはあるが、大企業が本社を郊外に建てるケースはあまりない。しかし、シリコンバレーはサンフランシスコ郊外に膨大なスケールでインフラや住環境ごと建設され、世界企業が集約する都市になっている。アメリカでは一から町を作ることが歴史的に多く、日本との発想の違いが感じられた。

Amazon.com

Amazon.com には管理会社の Hires 社より説明を受けながらオフィスや植物園型のワークスペースを視察した。ここでも社員の福利厚生を重視しており、Hires 社は設備管理と清掃だけではなく、部署の引越し作業やデスクの上のティッシュペーパーの補充などのコーデイネートも受託している。また、ペットの犬を自分のデスクに連れて来ている社員も多く、リラクセスできる環境に気を配っている。さらにはバナナの無料配布や植物園型のワークスペースを一般公開するなど地域住民にも配慮している。ただ日本ほど省エネに関しては対策を取っておらず、社屋も必要以上の開放部がある構造のように感じた。

近年はオンライン事業だけではなく AmazonGo は Amazon.fresh など IT 技術を活用し実店舗にも進出している。日本でも一部の企業はセルフレジを導入しているが AmazonGo はそもそもレジが無く、商品を棚から取ったり戻したりする行為を来店客ごとに AI がチェックし、後日カードから引き落としされるといふシステムであり、レジ従業員の確保だけではなく、来店客のレジ待時間も省かれるという大きなメリットがある。